

令和7年度社会教育委員の会第3回定例会会議録

- ◆開催日時：令和8年3月13日(金)午後7時～
- ◆開催場所：市役所3階 大会議室A・B
- ◆出席委員：藤原咲子、西山孝彦、藤井志帆、藤田和昌、朝井恭子、高瀬裕子、田中秀夫、古家祐子、橋尾和紀各委員(9人)
- ◆出席職員：遠藤教育長、教育部依藤部長、生涯学習課長谷川課長、中央公民館宮崎主査、生活文化総合センター生田館長、図書館楠本館長、青少年センター新保所長、人権教育課笹原課長、生涯学習課横尾(9人)
- ◆傍聴の人数：0人
- ◆公開・非公開の別：公開

次 第

1 開会 事務局

2 市民憲章朗唱 事務局

3 あいさつ 藤原議長、遠藤教育長

4 議事

(1) 令和7年度社会教育関係課事業実施状況報告について

ア 生涯学習課	長谷川課長
イ 中央公民館	宮崎主査
ウ 生活文化総合センター	生田館長
エ 図書館	楠本館長
オ 青少年センター	新保所長
カ 人権教育課	笹原課長

(2) 意見交換(質疑応答) 下記のとおり

(委員)

昨年の春のカルチャーフェスティバルの音楽部門に合唱グループとして参加した際、集客の少なさに課題を感じた。市民に興味を持ってもらい、来場を増やすための工夫ができないか。時代も変わり、今までと同じやり方では人が集まりにくい。人の興味や情報収集の仕方も変わってきているので、主催者側もどうすれば

興味を持ってもらえるか、新しい方法を考えているのか、お聞きしたい。

（事務局）

参加者への周知や広報は従来からのやり方で行っているが、なかなか参加者が集まらないという状況もある。

開催まで残り1週間、チラシやポスターなどでできるだけ多くの方に周知し、参加に繋がりたいと考えている。

（委員）

集客が難しいのであれば、出演者同士の交流を大きな目的にすることもできるのではないか。多くのグループが出演しても、お互いにすべてを知っているわけではないし、交流も難しい。出演者は本番中、楽屋にいるため他のグループの演奏を見ることができない。来場客が少なく会場に空席があるならば、出演者のための観覧席を設け、他のグループの演奏を見て応援する機会を作るのも、一つの目的として良いのではないか。

趣味の多様化もあり、合唱などを聞きに来てくれる方が少ない。チケットが売れていても、実際に来場しない人もいるため、もったいないと感じる。せつかくの発表の場は、出演者にとってもありがたいものだ。子どもたちが小さい時から様々な体験をし、芸術に触れることは非常に重要だと思う。幼少期の楽しい経験は大人になっても続くものなので、子どもたちにも鑑賞の機会を増やしたり、発表の機会を提供することも考えてほしい。

（委員）

社会教育のあり方は時代とともに変わっていくべき時期に来ていると感じる。学校教育においても、教え込む形態から主体的な学びへの転換期にあり、学校も変わりつつある。これまでは前例を踏襲し、その内容をいかに充実させるかという観点だったが、これからはあり方そのものを見直す時期ではないか。

また、部活動の地域展開が進められているが、地域で子どもたちをどう育てるかという大きな転換期を迎えている。

例えば日本舞踊や華道、茶道だけでなく、地域の文化団体と連携し、新たな受け皿を作っていくことができるのではないか。

学校の部活動の受け皿として、地域の団体が指導者をどう育成し、子どもたちに繋いでいくか。地域が子どもたちの新たな居場所となり、文化を継承していく担い手を育てることに繋がる。

これは地域の活性化にも繋がるのではないか。生涯学習課には

様々な団体との繋がりがあるので、そのあたりも検討してほしい。

(事務局)

学校の部活動以外にも様々な活動がある。先ほどの華道や茶道だけでなく、ミュージックベルの先生なども協力を申し出られている。学校の部活動種目だけでなく、市内の様々な活動団体に協力してもらい、生徒たちが多様な経験を積めるようにしたい。

そして、その生徒たちが大人になった時に、今度は文化やスポーツを継承していく担い手となるようなサイクルを市内で進めていける機会にしていきたい。社会教育や団体にとっても、今後の一つのチャンスと捉えて進めていきたい。

(委員)

いま、深夜徘徊する若者が非常に多いと感じる。コンビニで深夜勤務をしていると、中学生や高校生が深夜2時、3時に徘徊しているのを目にする。注意しても彼らは全く意に介さない様子で、対応が非常に難しい。

こういった徘徊する子どもたちが、今後どうなっていくのか非常に心配している。個々で話すと素直な子が多いが、集団になると気が大きくなる。小学校低学年の子が、深夜のコンビニでグループと一緒にいることもある。彼らが大きくなった時にどうなるか心配だ。

部活動地域展開の話に関連して、彼らは部活動がなくなったことで行き場を失い、悪い道に進んでしまう可能性もある。部活動の代わりに様々な活動ができるようになれば、そのような場に彼らが参加することで、ある程度の改善が見られるのではないかと思う。地域の多岐にわたる活動ができることを期待している。

(事務局)

学校、地域、関係機関が連携して子どもたちを守るのではなく、どう育てるかを考えるべきだ。特に10年、20年前と比べ、家庭と地域が連携して子どもを育てる関係が希薄になったと感じる。

発達障害などを持つ子どもが増え、個別の対応が必要になっている。小・中・高校と連携し、子どもたちの課題や特性を理解した上で支援していききたいため、情報共有しながら対応していく。

(委員)

発達障害の相談が増えているのは事実である。

しかし、発達障害が最近出てきたわけではなく、昔から同じ特

性を持つ人はいた。それが社会生活や学校でのコミュニケーションで困り事が生じ、感情のコントロールが難しくなることで、障害として認識されるようになったのだと思う。家庭や学校がサポートできる体制をどう作るかが重要だと感じる。

全体的にゆとりがない社会なので、少し枠からはみ出している人がいると、ストレスを感じたり、居場所がなくなったりすることが増えているように思う。「色々な人がいる」「少しはみ出した対応もしてみよう」といったゆとりが一人一人にできれば良いと常を感じている。

もう一点。カルチャーフェスティバルなどのイベントは土日祝日に開催されることが多い。親は子どもを連れて車で来場できるが、年配の方で免許証を返納した方や、車の運転が不安な方が移動する手段に困ることがある。

西脇市には「むすブン」というデマンド交通サービスがあるが、予約でいっぱいになるほど活用されている。これが日曜日にも運行されれば良いなと思ったため、担当部署に要望を伝えてほしい。

(事務局)

今後、免許証を持たない年配の方が増えることを考えると、そのような方々がイベントに参加できるような移動手段を考えていく必要がある。日曜日の運行を望む声があることは、担当部署に伝えておく。

(委員)

昨年12月に訪問した高齢者の方が災害時の避難について、大雨の際に避難場所が分からず困ったと話されていた。指定された避難場所まで高齢者が移動するのは難しい。公会堂へ行きたかったが、川の横を通る道で、水が出ていると危険で行けなかった。

ある研修会で、他の自治体が高齢者と小学生と一緒に防災マップを作成している事例があった。高齢者が「この道を通れば避難できる」、「ここは坂があるから1人では無理、誰かに助けてもらおう」といった具体的な内容を話し合っただけでマップを作成していた。

これは非常に重要なことだと感じた。実際に動けないと意味がない。西脇市は災害が少ないため、危機感が薄い傾向にある。地域の防災教育も社会教育の役割だと感じている。

(事務局)

地域防災について。西脇市では地域防災のため、自主防災組織

の立ち上げを各地区にお願いしている。まだすべての地区で立ち上がっているわけではないが、特に障害者や高齢者のいる世帯については、安否確認を行い、支援計画を立てるような取組みも自主防災組織にお願いしている。

防災には自助、共助、公助の3つの基本がある。自助が難しい場合に共助の考え方が出てくる。自主防災組織が活躍する場はここである。我々公助は、共助で救いきれない大規模な災害に対応する。まちの防災力を上げるためには、自主防災組織をいかにしっかり作り上げるかが重要だ。多様な世代と一緒に防災マップ作りなどを行うことは非常に大切だと感じる。

また、「〇〇さん宅の池の水がいつもより10センチ上がっていたら危ない」といった、自分たちで危険を発見し、普段から声かけをして関係を築いておくことが重要だと思う。

(委員)

中央公民館の教養講座の中には定員割れしているものもある。例えば、3分の1以下、半分以下の参加人数の講座もあるが、これらはどのように考えて教室を運営しているのか。

(事務局)

講座については、毎年募集をするが、応募者数は年によって変動がある。

現在、講座の参加者が3名以下の場合は、講師の先生と相談し、今回は中止にするかを検討している。中止の場合は、申し込んだ方々に事情を説明し、次回以降の参加をお願いしている。

特に子どもが参加する講座については、習い事や塾などで忙しい子が多いため、参加人数が減ってきているが、低年齢の子どもたちの参加率は高い。人数が少ない場合は、講師の方と打合せを行い、開催を見送る場合もある。

(委員)

夏の「人権文化をすすめる市民運動推進強調月間講演会」について、魅力あると感じた。オンライン配信に申し込んだが、オンライン配信は3会場のみで、他の3会場は対象外だった。

もし、他の会場もオンライン配信が可能であれば、さらに多くの人が参加でき、良い学習の機会になるのではないか。

(事務局)

すべての会場でオンライン配信できればと考えているが、講師

によってはオンライン配信を了承されない場合がある。また、子どもたちの写り込みの問題などにより、配信できない場合もあるがご理解をいただければと思う。

(委員)

現在、学校では地域の方に読み聞かせをお願いしたり、生涯学習課の取組みで様々なボランティアの方に、授業支援、子どもの世話、ミシンボランティアなどでお世話になっており、大変感謝している。

例えば、公民館講座の「子ども絵画教室」の先生のような専門家を、授業の中で派遣していただくことはできないか。専門家やプロの目で子どもたちを指導していただくような取組みがあれば活用したい。

社会教育の強みは、その幅広さ、多様性、そしてそれぞれの専門性にあると思う。質の高い教育を提供するために、社会教育のノウハウや力を学校教育にも借りられないかと感じた。ボランティアの中にも専門家はいるが、基本的には作業支援が主な役割である。

そこで、専門家の派遣について、多くの講座を企画している生涯学習課に相談し、協力してもらうことは可能か。

(事務局)

学校の授業に専門の先生に入ってもらえないかという要望は、学校教育課と連携をとる必要があるため相談しておく。

(事務局)

特に総合学習などで効果があるのではないかと感じた。学校からも学校教育課に意見を伝え、必要な場合は市役所職員が直接出向いて話すこともできるだろう。専門家の派遣事業のようなことができないか考えてみる。

(事務局)

学校の先生を公民館講座の講師としてお願いすることは可能である。

ただし、公民館が先生を雇用し派遣するという形は難しい。

例えば、学校と公民館講座講師で直接やり取りし、先生が来られる場合は、ボランティアとして協力いただく形になるのではないか。学校の授業と異なり、公民館講座ではコーチング手法で子どもの自主的な創作を促している。学校教育にも取り入れるので

あれば、学校と先生との話し合いも一つの方法ではないか。

(委員)

教員は専門的な指導法を学んでいるので、もちろん授業は行う。しかし、そこにさらに専門家の視点を入れることで、より質の高いものや、教員が提供できないノウハウが子どもたちに伝わるかもしれない。芸術系などで、新しい感性が芽生え、高まる可能性があると思う。常に指導者を交代してほしいという意味ではなく、そのような形で協力をお願いできないか。特定の先生に常に依頼できるわけではないので、社会教育の支援をいただきながら、そのような取組みができれば嬉しい。

(委員)

美術関係の団体にも協力を仰ぐこともできるのではないか。書道については、私自身も学校で、畳くらいの大きな紙に自分の好きな言葉を書くという取組みをさせていただいている。筆だけでなく、体全体を使って自然に書く方法を試したら、子どもたちが非常に喜んでくれた。不登校の子どもも参加してくれたが、その子が私を見つけて手を強く握ってくれた時、心が満たされるような感覚になった。その子はとても良い表情をしていた。忙しい中でも、そういった依頼は断らないようにしている。

(委員)

最近、友人が大阪方面から西脇市に来た際、ゴルフの帰りにキャンプ場に寄ることが非常に多くなったと聞いた。YouTubeなどでもキャンプ動画が多く、西脇のキャンプ場も注目されていると感じた。

民間の取組みだが、地域イメージ刷新の成果として、日本のへそ日時計の丘公園オートキャンプ場は非常に人気がある。花火大会の日は予約が取れないほどである。外部からは「ゴルフ場ばかり」と言われていたが、最近では印象が変わってきている。

この秋には大手企業がそこを貸し切って大きなイベントを予定しているようだ。

話は変わるが、図書館と学校との連携が素晴らしい。団体貸し出しの昨年度比が111.5%と、子どもたちが減っている中で素晴らしい数字だと思う。今後ますますのご活躍を期待している。

資料10ページの「レファレンス件数」とは何か。

(事務局)

レファレンスとは、利用者からの問合せ件数のことである。冠婚葬祭、健康、歴史など、様々な問合せがある。それがレファレンス件数として計上されている。

学校に図書館をたくさん利用していただき、本当に感謝している。もっと利用していただきたい。学校で読書が大切だと言われているが、関心を示す子どもは少ないと感じている。もっと図書館を活用してほしい。

学校からの依頼で、図書館職員がお話会や朝の読書、授業で本を紹介なども行っている。子どもたちに読書に関心を持ってもらいたいので、ぜひ図書館を活用していただきたい。

(委員)

学校では月に1回程度、大量に本を借りて学年ごとにケースに入れ、学級文庫として活用し、入れ替えながら子どもたちの読書活動に役立っている。物語だけでなく、授業で車について学ぶ際に、様々な車に関する本を借りるなど、幅広く活用させていただいている。

確かに、子どもたちは読書から少し離れ、紙媒体の本を読む時間は減っていると感じる。タブレットに向かう時間が増えていることも影響しているだろう。

しかし、紙媒体の文字に触れることは、タブレットが普及しても重要だと考えており、学校ではこの点を認識し、今後も図書館を活用していきたい。他の学校にもこの取組みを伝えていきたい。

(委員)

P T Aについて質問がある。全国的にはP T Aを解散したり、脱退する動きが見られるが、西脇市の場合はどうか。

(事務局)

東播磨管内でも脱退などの話も聞くが、西脇市としては、現状で脱退の話は出ていない。先日の研修会で、子どもたちを真ん中に置き、保護者、地域が連携することの重要性を改めて感じた。

(3) 事務報告 (事務局)

令和7年度東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会事業報告及び令和8年度事業計画(案)について

5 閉会 西山副議長